

エコアクション 21

環境経営レポート

[期間 2022年1月～2022年12月]



2023年4月21日発行

目次

	page
1. 事業内容	3
2. 環境経営方針	4
3. 実施体制	5
4. 環境経営計画	6~7
5. 環境経営活動の実績	8~9
6. 二酸化炭素削減実績グラフ	10
7. 環境経営活動の取組結果の評価 次年度の環境経営活動計画	11~12
8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	13
9. 代表者による全体評価と見直し	13

事業内容

事業所名	株式会社 マエダ		
代表者名	代表取締役 前田 三枝子		
所在地	本社	〒114-0024	東京都北区西ヶ原 1-5-5
	営業本部	〒332-0003	埼玉県川口市東領家 3-31-12
	ドア工場		埼玉県川口市東領家 3-31-12
	第一工場		埼玉県川口市東領家 3-31-12
	第三工場		埼玉県川口市東領家 3-29-23
環境管理責任者	代理 前田		
及び担当者の連絡先	T E L	048-224-1500	
	F A X	048-224-2309	
	E-mail	info@kk-maeda.co.jp	
	U R L	http://www.kk-maeda.co.jp	
事業内容	建築用金物・鋼製建具・ガラス製品 アクリル製品の製造・施工		
資本金	5 0 0 0 万円		
従業員数	50人(2023年7月25日時点)		
事業所の延床面積	2 5 4 8 . 1 0 m ²		
事業所の敷地面積	2 2 2 6 . 1 7 m ²		
認証・登録の対象範囲	全組織・全活動		

環境経営方針

環境経営理念

株式会社マエダは、『仕事に誇りを 社員に夢を 歴史を重ねる ONLY ONE 企業』を経営理念とし、現代建築に欠かせない多くの製品を通じて、お客様へ『安心』を提供する製作・施工会社です。

しかし、自社の事業活動を展開することで、環境には何らかの影響を与えており、その為に広く環境対策を、取り組むことが重要であると考えます。

環境保全対策に取り組むとともに、持続的発展が可能な社会づくりに、継続して貢献していくために、株式会社マエダは、以下の基本指針を推進します。

基本指針

1. 節電と省エネルギー化を進め、二酸化炭素の発生抑制、排出削減に取り組み、地球温暖化防止に努めます。
2. 省資源による仕事を心がけ、廃棄物の発生を抑制し、発生量削減に努めます。
3. 節水に努め、排水量の抑制、削減に努めます。
4. 環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境配慮に努めます。
5. グリーン購入を推進し、環境負荷の少ない物品使用に努めます。
6. 有害化学物質は効率的に使用し、排出量の削減に努めます。
7. 材料を有効に使用し、建設混合廃棄物排出量の削減に努めます。
8. 社内要所に環境経営方針を掲示し、全従業員にエコアクション21環境経営システムを徹底します。

2022年1月1日

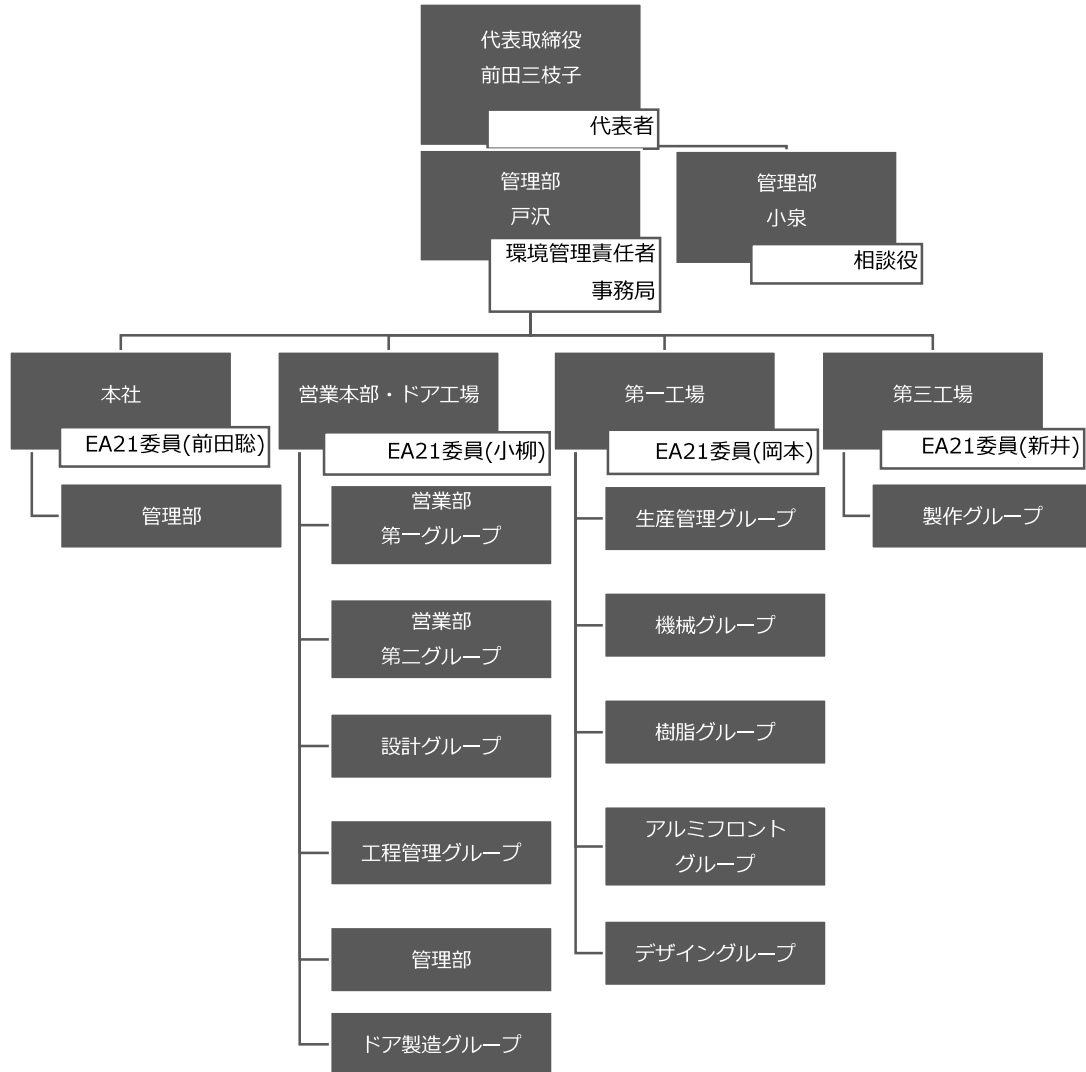
株式会社マエダ

代表取締役 前田三枝子

株式会社マエダ

エコアクション21実施体制(総員50名)

代表者(承認)	環境管理責任者
前田三枝子	代理責任者 前田聡悟
2023/7/25	2023/7/25



代表者	環境管理責任者
<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の策定 ・環境管理責任者の任命及び実施体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・経営資源(人材・資金・技術)の用意 ・全体の評価・見直し ・環境経営レポートの承認 ・環境経営目標及び環境経営計画の承認 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの総責任者としての役割権限 <ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの実績を代表者へ報告 <ul style="list-style-type: none"> ・環境関連法規の取りまとめ ・環境への負荷及び取組みへの自己チェックの実施 ・環境経営目標・経営計画の策定及び達成状況の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・環境経営レポートの作成 ・E A 21委員会・環境経営活動の運営
事務局	E A 2 1 委員
<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計・管理 ・各指標の取りまとめ→環境負荷の状況作成 <ul style="list-style-type: none"> ・環境関連文書及び記録の作成 ・E A 21委員会・環境経営の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営計画策定、達成・実施状況確認、評価 <ul style="list-style-type: none"> ・是正処置、予防処置の実施 ・部門及びグループ環境経営計画の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・E A 21委員会・環境経営の運営
全従業員	
<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を理解 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加 	

■環境経営計画①

2022年度（2022年1月～2022年12月）

環境経営責任者：前田聡悟

弊社の環境経営方針に沿って、環境経営目標設定ならびに環境経営計画を立てました。

環境経営方針	環境経営目標			環境経営計画
	項目	中長期 2023～2025年度	今年度 2022年度	2022年度及び 2023年度
節電と省エネルギー化を進め、二酸化炭素の発生抑制、排出削減に取り組み、地球温暖化防止に努めます。	電力(動力)使用に伴う二酸化炭素を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度目標 2018年度比6%削減 ・2024年度目標 2018年度比7%削減 ・2025年度目標 2018年度比8%削減 	2018年度比5%削減	必要でない照明、電源を消す 室内温度 夏28度、冬20度を目安として エアコンを利用する
	ガソリン・軽油から出る二酸化炭素を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度目標 2018年度比4%削減 ・2024年度目標 2018年度比5%削減 ・2025年度目標 2018年度比6%削減 	2018年度比3%削減	各車両の燃費の 月別測定・監視 エコドライブの徹底
	灯油から出る二酸化炭素を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度目標 2018年度比2%削減 ・2024年度目標 2018年度比3%削減 ・2025年度目標 2018年度比4%削減 	2018年度比1%削減	室内温度を 冬20度を目安とする
省資源による仕事を心がけ、廃棄物の発生を抑制し、発生量削減に努めます。	産業廃棄物を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度目標 2018年度比19%削減 ・2024年度目標 2018年度比20%削減 ・2025年度目標 2018年度比21%削減 	事業者への委託量を 2018年度比18%削減	分別の徹底により 再利用を増やす
	一般廃棄物を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度目標 2018年度比3%削減 ・2024年度目標 2018年度比4%削減 ・2025年度目標 2018年度比5%削減 	事業者への委託量を 2018年度比2%削減	分別の徹底・ゴミを持たない
節水に努め、排水量の抑制、削減に努めます。	水の総使用量を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度目標 2018年度比1%削減 ・2024年度目標 2018年度比1%削減 ・2025年度目標 2018年度比1%削減 	水の総使用量を 2018年度比1%削減	水を使用する場合は、こまめに 蛇口を開閉するなど節水に心がける
事業所名	株式会社 マエダ			

■環境経営計画②

2022年度（2022年1月～2022年12月）

環境経営責任者：前田聡悟

弊社の環境経営方針に沿って、環境経営目標設定ならびに環境経営計画を立てました。

環境経営方針	環境経営目標			環境経営計画
	項目	中長期 2023～2025年度	今年度 2022年度	2022年度及び 2023年度
環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境配慮に努めます。	環境経営方針の全社的展開	全従業員が環境経営計画を分担する	環境経営目標、環境経営計画の策定への従業員の参画	グループウェアの表紙に環境経営方針を掲示する 部門別環境経営計画の策定
	地域の美化	毎月2回	毎月1回	会社・材料置き場外回りを清掃する
グリーン購入を推進し、環境負荷の少ない物品使用に努めます。	グリーン購入の推進	グリーン商品を優先的に購入する	グリーン商品を優先的に購入する	グリーン商品を優先的に購入する
有害化学物質は効率的に使用し、使用量の削減に努めます。	使用化学物質の管理と使用量の削減	有害化学物質の使用量を削減する	有害化学物質の使用量を削減する	使用化学物質の把握と集計 有害化学物質の代用品の検討と在庫管理の徹底
材料等を有効に使用し、建設混合廃棄物排出量の削減に努めます。	建設混合廃棄物排出量の削減	建設混合廃棄物排出量の削減	建設混合廃棄物排出量の削減	材料を有効に使用し、廃棄する部分を減らす
※建設混合廃棄物とは 金属くず・紙くず・ガラスくず・がれき類・廃プラスチック類の混在した廃棄物を指す。				
事業所名	株式会社 マエダ			

■環境経営活動の実績①(目標に対する達成状況)

2022年度 (2022年1月～2022年12月)

環境経営方針	環境経営目標	数値項目	単位	営業本部	第三工場	本社	合計
	項目			第一工場 ドア工場			
節電と省エネルギー化を進め、二酸化炭素の発生抑制、排出削減に取り組み、地球温暖化防止に努めます。	電力(動力)使用に伴う二酸化炭素を削減する	2018年基準年	kg-CO2	109,271	29,571	5,775	144,618
		2022年目標	kg-CO2	103,808	28,093	5,486	137,387
		2022年実績	kg-CO2	78,045	17,215	4,092	99,352
		2022年達成率	%	133.0%	163.2%	134.1%	138.3%
	ガソリン・軽油から出る二酸化炭素を削減する	2018年基準年	kg-CO2	17,368	11,161		28,529
		2022年目標	kg-CO2	16,846	10,826		27,673
		2022年実績	kg-CO2	10,344	7,908		18,252
		2022年達成率	%	162.9%	136.9%		151.6%
	灯油から出る二酸化炭素を削減する	2018年基準年	kg-CO2	11,875			11,875
		2022年目標	kg-CO2	11,756			11,756
		2022年実績	kg-CO2	9,908			9,908
		2022年達成率	%	118.7%			118.7%
	電力・ガソリン・軽油・灯油から出る二酸化炭素排出量の全社合計	2018年基準年	kg-CO2				185,021
		2022年目標	kg-CO2				176,815
		2022年実績	kg-CO2				127,512
		2022年達成率	%				138.7%
省資源による仕事を心がけ、廃棄物の発生を抑制し、発生量削減に努めます。	産業廃棄物を削減する	2018年基準年	kg	76,000.0			76,000
		2022年目標	kg	62,320.0			62,320
		2022年実績	kg	48,641.0			48,641
		2022年達成率	%	128.1%			128.1%
	一般廃棄物を削減する	2018年基準年	kg			270.5	270.5
		2022年目標	kg			265.1	265.1
		2022年実績	kg			237.6	237.6
		2022年達成率	%			111.6%	111.6%
節水に努め、排水量の抑制、削減に努めます。	水の総使用量を削減する	2018年基準年	m ³	261.0	46.0	83.0	390.0
		2022年目標	m ³	258.4	45.5	82.2	386.1
		2022年実績	m ³	244.8	49.6	68.0	362.4
		2022年達成率	%	105.6%	91.8%	120.8%	106.5%
事業所名	株式会社 マエダ						

購入電力の二酸化炭素排出係数は、2021年度東京電力エナジーパートナーの調整後排出係数0.452kg-CO2/kWhを採用した。

■環境経営活動の実績②(目標に対する達成状況)

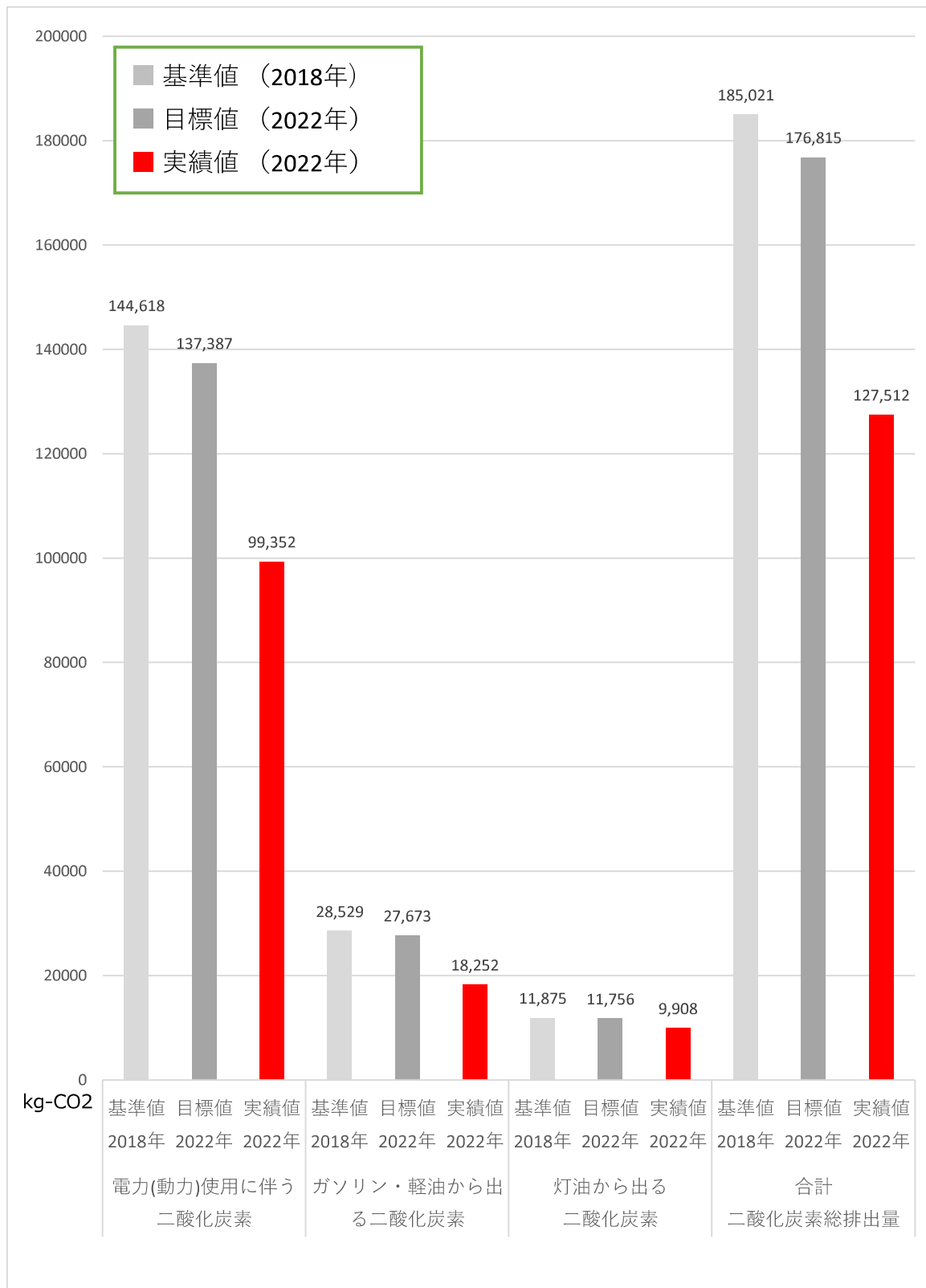
2022年度 (2022年1月～2022年12月)

環境経営方針	環境経営目標	活動目標	達成状況
	項目		
環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境配慮に努めます。	環境経営方針の全社的展開	環境経営目標、環境経営計画策定への従業員の参画	数値実績無し
	地域の美化	地域の美化活動の実施(月1回)	月1回の実施
グリーン購入を推進し、環境負荷の少ない物品使用に努めます。	グリーン購入の推進	グリーン購入の推進	グリーン製品・エコ製品の優先的に購入を行った
有害化学物質は効率的に使用し、使用量の削減に努めます。	使用化学物質の管理と使用量の削減	使用化学物質の把握と集計	メタクリル酸メチルの保有量 (2液型 ハードロック) 2018年度 12月末 49.74kg 2022年度 12月末 31.96kg 基準年から17.78kgの削減を達成した。
		有害化学物質の代替品の検討と在庫管理の徹底	在庫管理を徹底する事で無駄な使用を無くし目標を達成した。
材料等を有効に使用し、建設混合廃棄物排出量の削減に努めます。	建設混合廃棄物排出量の削減	材料を有効に使用する事での建設混合廃棄物排出量の削減	材料の管理簿の作成と更新 (現場毎の注文を減らし、複数の現場で材料が取れるように在庫管理を行った)
※建設混合廃棄物とは 金属くず・紙くず・ガラスくず・がれき類・廃プラスチック類の混在した廃棄物を指す。			
事業所名	株式会社 マエダ		

■二酸化炭素削減実績グラフ

建築用金物・鋼製建具・ガラス製品・アクリル製品の製造・施工事業活動を通じて二酸化炭素の発生抑制、排出削減に取り組みます。

2022年度
(2022年1月～2022年12月)



■環境経営計画の取組結果の評価

2022年度（2022年1月～2022年12月）

環境経営責任者：前田聡悟

環境経営方針	環境経営目標		環境経営計画	実績 (達成率)	評価
	項目	今年度 2022年度			
節電と省エネルギー化を進め、二酸化炭素の発生抑制、排出削減に取り組み、地球温暖化防止に努めます。	電力(動力)使用に伴う二酸化炭素を削減する	2018年度比5%削減	必要でない照明、電源を消す 室内温度 夏28度、冬20度を目安として エアコンを利用する	138.3%	③
	ガソリン・軽油から出る二酸化炭素を削減する	2018年度比3%削減	各車両の燃費の月別測定・監視 エコドライブの徹底	151.6%	④
	灯油から出る二酸化炭素を削減する	2018年度比1%削減	室内温度を冬20度を 目安とする	118.7%	③
省資源による仕事を心がけ、廃棄物の発生を抑制し、発生量削減に努めます。	産業廃棄物を削減する	事業者への委託量を 2018年度比18%削減	分別の徹底により再利用を増やす	149.0%	④
	一般廃棄物を削減する	事業者への委託量を 2018年度比2%削減	分別の徹底・ゴミを持たない	111.6%	③
節水に努め、排水量の抑制、削減に努めます。	水の総使用量を削減する	水の総使用量を 2018年度比1%削減	水を使用する場合は、こまめに蛇口を開閉するなど節水に心がける	120.8%	③
事業所名	株式会社 マエダ				

■環境経営計画②

2022年度（2022年1月～2022年12月）

環境経営責任者：前田聡悟

環境経営方針	環境経営目標		環境経営計画	実績 (達成率)	評価
	項目	今年度 2022年度			
環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境配慮に努めます。	環境経営方針の全社的展開	環境経営目標、環境経営計画の策定への従業員の参画	グループウェアの表紙に環境経営方針を掲示する 部門別環境経営計画の策定	達成	③
	地域の美化	毎月1回	会社・材料置き場外回りを清掃する	達成	③
グリーン購入を推進し、環境負荷の少ない物品使用に努めます。	グリーン購入の推進	グリーン商品を優先的に購入する	グリーン商品を優先的に購入する	達成	③
有害化学物質は効率的に使用し、排出量の削減に努めます。	使用化学物質の管理と排出量の削減	有害化学物質の使用量を削減する	使用化学物質の把握と集計 有害化学物質の代替品の検討と在庫管理の徹底	達成	③
材料等を有効に使用し、建設混合廃棄物排出量の削減に努めます。	建設混合廃棄物排出量の削減	建設混合廃棄物排出量の削減	材料を有効に使用し、廃棄する部分を減らす	達成	③
※建設混合廃棄物とは 金属くず・紙くず・ガラスくず・がれき類・廃プラスチック類の混在した廃棄物を指す。					
事業所名	株式会社 マエダ				

凡例 ⑤目標を完璧に達成 ④目標を十分に達成 ③目標を達成 ②目標にやや不十分 ①目標に不十分

【総評】

環境への意識を高めることで、会社全体で持続可能な活動が日常の中で自然と行われるようになりました。今後、更に高い環境目標の達成に向けては、新たなアイデアや取り組みが必要である、従業員同士が協力し合い、知識や経験を共有することで、より効果的な方法を見つけ出していきます。

■環境関連法規への違反、訴訟等の有無

弊社の遵守しなければならない環境関連法規として、廃棄物処理法及びそれらに関連する東京都北区リサイクル及び一般廃棄物の処理に関する条例等があります。

弊社では、これらの法規制遵守のために、これらの法規制の一覧表(株式会社マエダ 環境関連法規等一覧表/遵守評価)を作成し、定期的に遵守状況をチェックすることにより、違反のないことを自主的に確認しました。

なお、これらの法規制に対する関係当局からの違反の指摘、及び関連する訴訟は過去3年間ありませんでした。

■代表者による全体評価と見直し・指示

継続したEA21活動のおかげで社内の環境改善活動はスムーズに進んでいる。一時停滞していたペーパーレス化も徐々に浸透していると感じている。

しかしながら今後受注活動が活発化した時には当然のことながら紙の使用量は増えることが予想され、その中でいかに無駄を省いていくかが個々に問われてくる。

今後も5S活動と連携し、データでのやり取りの推進が強く望まれる。